

第1回 運営会議 議事録

日時：平成21年6月16日

場所：大阪府庁別館北館1階

さいかくホール

出席者（敬称省略）

増田 昇（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）

下村 泰彦（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）

嘉名 光市（大阪市立大学大学院工学研究科 准教授）

清野 博子（元読売新聞編集委員）

弘本 由香里（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員）

西台 幸子（うみべの森を育てる会）

松下 義彦（泉佐野市 都市整備部長）

おもな意見

議案1：ハード整備について

- ・資料で示されている竹林管理の場所は、活動を誘発するための道を行政がつくり、その後パーククラブが調査、探索活動を展開していくシナリオであった。竹林の間伐は探查路を作るために行うのか、それとも面的な管理まで含めてるのか考えておくべき。
- ・パークレンジャー養成講座の受講生もハード整備について気にしているのではないのか。整備の報告や検討する等の機会を設けているのか。
- ・進入路は一般来園者の車が入るアプローチか、それとも管理用のアプローチか。管理用のアプローチあれば、修景より安全性を重視すべき。来園者を迎える顔となる位置づけであれば、それに適した設えを施すことが必要。
- ・進入路が気になる。縦断面図と主要な部分の断面図を見たい。過剰に自然修復型の道路を演出する必要はないが、自然修復型公園の入り口なので、それにふさわしい平面、断面を検討したい。
- ・公園入り口に入って右側の法面の傾斜が非常に急なものになっている。模型を見ながら検討したい。単に法面を緑化させるという方法もあるが、カーブになっている部分は見通せないような設えで、カーブを曲がれば風景が開けるような演出もある。竹でエントランス部を作る修景もあるだろう。
- ・この公園にはゼロエミッション的な考え方もあり、伐採木もボランティア活動に使うなどのアイデアが必要。
- ・整備を行う際は、元の地形に近づけた形にすべき。また、道路と法面を切り離して考えると利用者に不自然な印象しか残さないのでは、一体的に考えていくべき。
- ・棚田跡は府民活動によって行われる区域として位置付けられているが、何も手を加え

ないことでもつくり出される野の風景というものがあってもよい。

- ・この公園はシナリオ型の公園であると理解している。しかし、こんな風景になるという具体的な姿が見えてこない。人が多く集まることができる魅力のポイントを作るべき。野の風景だけではなく、人工の魅力のポイントを作ってもよいのではないか。
- ・里海公園は春先に山桜やソメイヨシノを楽しめる公園になっている。自生している植物に魅力ある植物を少し加えた公園づくりを目指したい。
- ・この場所に進入路を作ることによって、公園の眺望性を損なわないようにしてほしい。
- ・設計委託はプロポーザル形式などで行うことが望ましい。また、設計の過程でパーククラブとコミュニケーションを図りながらすすめていけるような手法が必要である。

委員長まとめ

- ・進入路は民活区域へ向かうアプローチとしての性格も持っているため、園道ではなく市道として位置づけなければならないなどの制約があるのではないかと。まずは、制約条件と議論する点を整理すべき。
- ・次回の運営会議では、今日いただいた議論を加えてスケッチレベルの資料を出してほしい。縦断、横断等の図面が準備できれば専門的な意見をもらうことができる。
- ・府民活動拠点では、どんな活動がされるのか、活動をどのようにサポートできるかを明確にした上で検討すべき。
- ・府民活動拠点に必要な機能を整理することが必要。設計者とパークレンジャーの人たちがコミュニケーションを図りつつ、どんな施設にするかを考えていく方向も検討したい。

議案2：参画型の公園運営の基本的仕組みについて

- ・他の施設では、ボランティアが企画した活動プログラムを来館者に提供している。ここでは一定の役割を提示する公募事業と、場所提供や広報支援を行う協働事業の2種があり、この両者の調整が課題であると感じている。
- ・運営会議は、公正な見地から公園運営を調整する「アドバイザー会議」なのか、公園に参画する団体が活動内容を調整する「連絡調整会議」なのか、を整理することが必要。また、運営会議は何を意思決定していくのかを整理しなければならない。
- ・公園参画団体を団体と見るのか、プログラムと見るのかで受け入れのしくみは大きく変わってくる。
- ・団体が公園で活動する場合は、募集要項を準備し、その中で応募する団体の活動内容が公園の理念等に沿っているのかを判断する基準が必要。公園の参画団体どうしが協議・調整する場も必要。
- ・例えば、今年度、来年度にイベントをする際に、行政やパーククラブの企画に加えて、持ち込みプログラム等を試行的に募集して実施してみるのもいいかもしれない。

- ・活動には、場所をゾーンに分けて管理してもらうものと、イベント的に場所を使うものがある。そのあたりの整理が必要である。
- ・この公園においては府のパートナーとして「公園をつくる活動プログラム」はパーククラブだけとし、「公園を使いこなす活動プログラム」についてはいろんな既存団体が入ってくるのか等を整理することが必要。
- ・パートナーシップの組み方は、いろんな種類があったほうがよい。
- ・開園前に公園で活動する場合、公園参画者は工事現場を使わせてもらうことになる。大学の場合、課外授業として工事現場を使うには手続きなどが非常に多くなる。しかし、開園前に公園へ参画する枠組みを示していただければ、大学としても公園に参画しやすくなる。
- ・公園をつくるパートナー、公園を使いこなすパートナーを分けて議論しないといけない。
- ・参画型公園の形態のひとつとして、スポンサードの形態があることを明示しておいたほうがよい。その方が企業も参画しやすくなる。また、スポンサードについては行政内部にも伝えておいたほうがよい。税金を使って行う事業とスポンサードで行う事業は異なることを十分に理解してほしい。
- ・公園づくりの過程で、カメラマンに入ってもらい記録をまとめていくほうが良い。また、活動の記録だけではなく、公園の定点写真も取っていただきたい。

委員長まとめ

- ・「つくるパートナー」と「使いこなすパートナー」がある。「使いこなすパートナー」は「つくるパートナー」が場所をつくりあげるのを待つのではなく、年に何回かは公園で使いこなす活動を展開していけばよい。
- ・今年度、一日プレ開園（イベント）を実施してみたときに、「使いこなすパートナー」はどんな公園の使いこなし方ができるのかを試行的にしてみてもどうか。
- ・今後はパークレンジャー養成講座の修了生の組織化についても議論すべき。
- ・当面重要なのは、「つくるパートナー」である。その後に「使いこなすパートナー」も重要と考えられる。しかし、この公園は面積が広く全部をつくりあげるには年月がかかりすぎる。そこで、つくり上げながら、使いこなすことがこの公園に求められる。それが新しい公園づくりにつながっていくものと考ええる。